

## 第4回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第4回環境保全協議会では、今年度の環境調査の中間報告をしました。また、今年度末には、流域の動植物への影響がどの程度となるかの予測について、判断するため、その方法等について説明し、ご意見をいただきました。

具体的には「第3回協議会における指導事項と対応案」「今年度の環境調査状況について」「環境影響予測の考え方について」「流水型ダム の 先 行 事 例 紹 介」を説明し、各委員から活発な意見をいただきました。

### 記

1 日 時 平成21年11月10日（火） 14:00～15:40

2 場 所 山形県 建設会館 5階 中会議室

3 出席者 12名（全員出席）

中島委員長、伊藤委員、今井委員、梅田委員、大場委員、萱場委員、岸委員、小林委員、柴田委員、原委員、横倉委員、渡辺委員

#### 4 各委員からの主なご意見

##### ・原 委員：【環境調査の状況について】

付着藻類とアユのはみあとの調査としては、最大の努力をしたと言える。出水による攪乱とアユのはみあとの関係などについて最終的なまとめは、もう少しデータを集めて、論理的に説明した方がよい。〔事務局:さらにデータを集めて解析した上で、まとめを行いたい。〕

##### 【影響予測の考え方について】

工事中、下流域への影響が心配されるが、どのように対処する予定か説明がほしい。〔事務局:工事中に下流域の流量・水質に影響が生じないような配慮を行う予定です。現在設計中です。〕

##### ・萱場委員：【付着藻類調査結果について】

上流と下流のアユの餌資源としての質の差について、要因を調べる必要がある。このため、各地点の流速と濁りの状況について調べたほうが良い。また、ダムができたときの変化を整理してほしい。〔事務局:各地点の流速と濁りなどについて、まとめたい。〕

##### 【環境影響予測の考え方について】

流水型ダムの特性から考え、平常時と出水時(濁りと流量)に分けて整理すると良い。ダムの影響については、残流域がどの程度かを整理すると良い。〔事務局:ダム残流域について整理したい。〕

##### ・今井委員：【環境調査の状況について】

クマタカの末沢個体は確認されているのか？各個体毎に再整理が必要。〔事務局:末沢個体は今年確認されていない。〕

##### ・横倉委員：【影響予測の考え方について】

マグソクワガタについては、範囲を広げて調査することが望まれる。  
ヒメギフチョウはダム周辺で、生息している情報がある。調査を継続すべきと思う。  
〔事務局:調査する方向で検討したい。〕

